

2019 年度 第 1 回「地域問題研究会」の報告

11 月 27 日（水）、OB 会員の皆さんを中心に新たに立ち上げられた「地域問題研究会」（以下、「研究会」）の初めての報告会が鹿児島大学附属図書館のグループ学習室で開催され、「研究会」の世話人の一人である仲村政文氏（鹿児島大学名誉教授）が「地域問題について考える－いくつかの論点－」というテーマで報告を行った（参加者は 11 名）。また、報告終了後、今後の「研究会」の方向性や具体的な検討課題について議論が行われた。

仲村氏は、地域問題について考える論点として、①生活圏としての地域（農村の都市化、工場や住宅地建設による農地の浸食）、②人口の動態と構造（少子高齢化、地方からの労働力の流出）、③地域の産業（農業切り捨て政策による食料自給率の低下、農業の再構築の必要性）、④地域の不均等発展と格差（都市間のヒエラルキーの形成）、⑤地方自治と住民自治（住民自治の重要性）、⑥安心して暮らせるまちづくり、むらづくり（地域再生の必要性）、⑦地域における主体形成（協同組合などアソシエーションによる住民運動が必要）、という 7 つ問題を提示した。仲村氏の報告に対して、もっと鹿児島の経済・産業の実態や鹿児島が抱える具体的な問題を知りたいとの発言があった。

仲村氏の報告を受けて、「研究会」の方向性や具体的な検討課題について意見交換が行われ、①鹿児島で特に深刻な若者の減少（少子化と若い労働者の県外流出）の問題、②統廃合によって学校が減っている問題、③平成の大合併の総括、④災害や防災の問題、⑤外国人労働者の問題などを今後議論したいとの意見が出された。

次回の「研究会」については、鹿児島県が実施している「かごしま県政出前セミナー」（県政の課題や県が重点的に取り組んでいる施策等について、県職員が集会等に出向いて直接説明する企画）を活用して開催する予定である。

法文学部 山本一哉